

a 学校教育目標	自ら学ぶ、心豊かな生徒の育成		b 経営理念 ミッション・ビジョン	<p>【ミッション】(自校の使命) ◎ 社会のために役立とうとする志を持つ生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ◎ 地域・保護者の期待に応える学校 ◎ 伝統や文化の継承を軸に成長する学校</p>								
評価計画					自己評価				改善方策		学校関係者評価	
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月 h 達成値	月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	I 評価 イ ロ ハ	m コメント
確かな学力	幸崎思考力を育み、自律的に学ぶ生徒を育成する	基礎学力の定着	・家庭学習の習慣化や支援が必要な生徒への補充学習を行うことで、基礎学力の定着を図る。	・定期テストの知識・技能の観点において、50%以上正答する生徒の割合(R6:70. 2%)	75%	59.8%	79.7%	C	・三原市で行っているアセスメント「i-check」においても、家庭学習の習慣が高く、家庭学習や生活習慣に課題があることは明らかである。 ・今年度は時間割の関係で、モジール学習を国・教・英の3教科のみとした。この3教科の達成値は69%であり、全体より約10%高い。	・生徒全体の指導として、宿題未提出の生徒、また宿題を解くことが難しい生徒に対する放課後の補充学習を行なう継続を行い、家庭学習や生活習慣改善を目指す。	○	・基礎学力や思考力をみる指標を定期テストとした場合の難しさを達成値の結果から感じた。次の評議員会では、定期テストの結果だけでなく、12月の学力定着調査の結果からの方針を教えてもらいたいです。先生方の学力向上のために個々の生徒や学級集団に対する継続した取組の工夫もよろしくお願いします。
		幸崎思考力の向上	・シンキングツールの活用や協働的な学習、個別最適な学びに向けた授業改善を図る。	・定期テストの思考・判断・表現の観点において、50%以上正答する生徒の割合(R6:67. 1%)	70%	63.9%	91.3%	B	・学年ごとに見ると、3年生は74. 1%と目標値を達成できている。しかし、1年生は59. 9%、2年生は57. 7%と目標値を大きく下回った。この結果は、研究授業における生徒自ら学びを進めていく学びの手引きによる授業や、知識・技能を活用する活動を行なった結果である。しかし、課題のある生徒について、取組の成果がまだ十分に出ていないと考えられる。	・保護者に説明し、家庭に協力を求めた。引き続き協力を求めていく。 ・学年ごとに、学習に関する取組みを行う。(例は2年生は学活で今日の学習の中から直感クイズを出題するなど)	○	・学力に関する生徒の差異が大きい。いかにフォローしていくのかが課題。 ・学力低下の課題解決には家庭での学習習慣が必要だと感じた。繰り返し学習が定着するといい。 ・保護者に対し家庭学習の大切さ、生活習慣の改善についてもと理解していただき、見直しを検討してもらえた良いと思います。学活でのクイズ出題は良いと思います。 ・基礎学力の定着に間違わでは、授業改善の視点も必要ではないか。
			・ICTの効果的な活用と、R80を活用した振り返りを行う。	・授業の終わりに、目標に対応したまとめや振り返りをR80で行なう」とに対する、肯定的評価の割合(R6:91. 6%)	95%	86%	90.5%	B	・教職員アグレートでは、肯定的評価が66. 6%であり、取組みが不十分である。 ・生徒アグレートのR80を行なうことで深く考えるようになったと思う」という項目の肯定的評価が76%で「R80を行なうことで論理的思考力が高まったと思う」という項目の肯定的評価が78%であり、生徒はR80の良さを実感しつつあると考えられる。	・引き続き、研究授業において協働的な学習や個別最適な学びの効果的なアプローチについて実践、協議していく。 ・研究授業においてR80の具体的なゴールを指導案に明記し、協議で改善案を考えてい。	○	
豊かな心・健やかな体	自己肯定感の向上 他を大切にし、ともに成長しようとする生徒を育成する。	自己肯定感の向上	・自己の役割を認識し、繰り返し成功体験を積める授業や行事等を行う。	・i-checkの散布図Iにおいて、AB領域に分布する生徒の割合(R6:未実施)	70%	94.1%	134.4%	A	・学校行事や活動の中で、心に残る体験をしたと答える生徒が多いところから、自己的役割を認識し、自らの力を發揮することで、自己肯定感を向かせている。 一方で、友達の意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが認められたかについては、6割程度にどまっているので、他者との交流により自己を深めていく機会をもたらせたい。	・実際の生活の様子よりも自己肯定感に良い数字が出ている。周囲から自分が見られていないか自己認識したり、できないことを克服して少しずつでもできるようになると感じたりする向上心を持たせたい。そのためには、自分自身を客観視できるようになることが必要である。	○	・今日の全校獅子太鼓の練習においても、先生方に見られながら、3年生がリーダーとなって、生徒自ら考え、よりよい活動をしていくようになりました。これが達成感や仲間意識を高めることにつながると感じました。 ・生徒が主体となって運動会などの行事に取り組む姿を拝見し、感銘を受けました。先生方のご指導の賜物だと思います。
		自治的な活動を通して、互いに成長しようとする集団の育成	・お互いを認め合い、高め合う集団づくりを行い、リーダーの育成と自治的集団の質の向上を目指す。	・運動会、文化祭などの各行事後のR80とアンケートの肯定的評価の割合(R6:95. 2%)	95%	79.7%	83.9%	B	・運動会では、リーダーを中心に他の生徒への呼びかけを行なった。自分たちの目標達成の姿を明確にし、それを達成するための指示出しや声かけの方法を考えさせた。	・文化祭に向けては、各学年、縦割り・パート別の各リーダーを中心、生徒主導で集団が動いていく取組を進めている。それによつて自ら集団を動かし、自分が集団の力になつていることを実感する中で、認め合い高め合せる集団になる。	○	・生徒のパラソル大会とのコメントもありましたが、人間形成の途中でもあるのでこれからも見守っていくたい。 ・裏付けのない高い自己評価は、自分と向合えていないように感じる。役割が持つことなどは思つ。
		健康の増進と体力の向上	・基礎トレーニングを充実し、体力・運動能力の向上を図る。	・持久力・柔軟性について、前回の記録を上回る生徒の割合(R6:69. 6%)	70%	65.2%	93.1%	B	・柔軟性において、73%の生徒が前回の記録を上回っている。 ・持久力について、57%の生徒が前回の記録を上回っている。 天候の関係もあって、体育館での活動が多く、柔軟運動は入念に行なえたものの、長い距離を走って持久力を鍛える場面が少なかった。	・柔軟性では、怪我の防止やパフォーマンスの向上につながるなど必要性を伝え、準備運動の段階から一つの動きの効果や適切な方向性を伝えていく。 ・持久力は、呼吸器や循環器などの心肺機能が急激に発育・発達する中学生時期において、その働きを高めておく必要があることを伝えている。	○	・柔軟性では、怪我の防止やパフォーマンスの向上につながるなど必要性を伝え、準備運動の段階から一つの動きの効果や適切な方向性を伝えていく。 ・持久力は、呼吸器や循環器などの心肺機能が急激に発育・発達する中学生時期において、その働きを高めておく必要があることを伝えている。
信頼される学校	自校に誇りを持ち、地域に信頼される学校づくりの推進	郷土愛の醸成	・地域や社会と関わりを持ち、自治活動を推進する。	・「獅子太鼓の継承は、自分と地域の関わりを考える機会になつてゐる」とに対する、肯定的評価の割合(R6:94. 0%)	95%	94.5%		B	・毎年の取組の中、先輩から後輩へ技を引き継がれていく流れがでている。3月の能地春祭りでは、新たな代としての発表の機会をいたべており、自分と地域の関わりを考える機会となっている。 また、今年度は1年生の総合的な学習の時間において、能地春祭り保存会と幸崎神社の方々から幸崎の歴史と文化についてお話をいたべた。	・生徒数が減少していく中で、一人一人の役割が増していくが、それが負担となる前に、できることを着実に進めていく方法で、どの生徒にもできることが少しずつ増えていくような取組をしたい。	○	・獅子太鼓の取組を地域につながる懸け橋として、さらに多面的に地域のことや地域の人の思いを広くくことができるように活動が進化できたらいいですね。 ・年度初めから勤務時間の短縮をめざして工夫され、成果につなげられているのかいいですね。全体が忙しい時期は大体決まっているので、そこを先生方がみんなで分担しながら乗り越えていくのは大切だと思いました。
		充実感・達成感に満ちた教育活動と教職員の働き方改革の推進	・行事や活動を見直し、業務改善に取り組む。 ・定時退校日と月別時間外在校時間の縮減(45時間以内)を徹底する。	・時間外勤務45時間以内の職員の割合(R6:91. 7%)	95%	93.6%		B	・目標には達しなかったが、昨年度よりも45時間以内の職員の割合を増やすことができた。行事において早めの準備し、計画的に進めることができた。昨年度の校務分掌の改善すべき点は年度当初に改善スムーズに進めることができた。 行事前には退校時間が異なる傾向があるので、退校時間を決めて効率よく業務を進める。	・さりげり45時間以内である職員がいるので、さらに在校時間の縮減をしていく。行事の準備において仕事分担を明確にして分散させ、一人に仕事が集中しないようにする。	○	・OS活動でより深められるといいでね。 ・現生徒ができる最大の力で継承していることが良いと思いました。 ・先輩から後輩への引き継ぎの様子を見せていただいたが、とても良かった。

【:自己評価 評価】  
A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達成) <100  
C:60≤(もう少し) <80 D:できていない <60

【:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からぬ。